

我が職場における安全活動

福島・開田森林事務所 萱野 久利
 髭田 勲

要 旨

我が職場の造林作業班は平成6年度から、末川造林班（5名）と西野造林班（6名）が統合して、新しく開田造林班に改称した。班の雰囲気づくりに特に注意したが、お互いのコミュニケーションを図るには、まず、毎朝のミーティング、毎月の安全懇談会で気軽に意見を出し合うことからはじめ、活動がより積極的になるよう「安全いろはカルタ」を皆で考えるようにした。

1 はじめに

毎日の作業を安全に行うには作業班のチームワークが不可欠である。

私達の職場は平成6年度の森林事務所の統合により、末川造林班（末川森林事務所）と西野造林班（西野森林事務所）が統合して、新たに「開田造林班」となった。

要旨でも述べたとおり、新しい造林班の雰囲気をいかにしてつくるかが作業を進める上での大きな課題である。安全懇談会等を活用する中から「安全いろはカルタ」を考え、作成することにより、良い成果が得られたので発表する。

2 管内の概要

開田造林作業班の活躍区域は、御嶽山の裾野に広がる開田村一円である。

(1) 国有林面積

5,274ha
 (村の35%)

(2) 機能類型別

木材生産林 59%
 森林空間棚林 21%
 国土保全林 13%
 自然維持林 7%

(3) 人工林、天然林別

人工林 48%
 天然林 45%
 その他(雑木、雑草) 7%

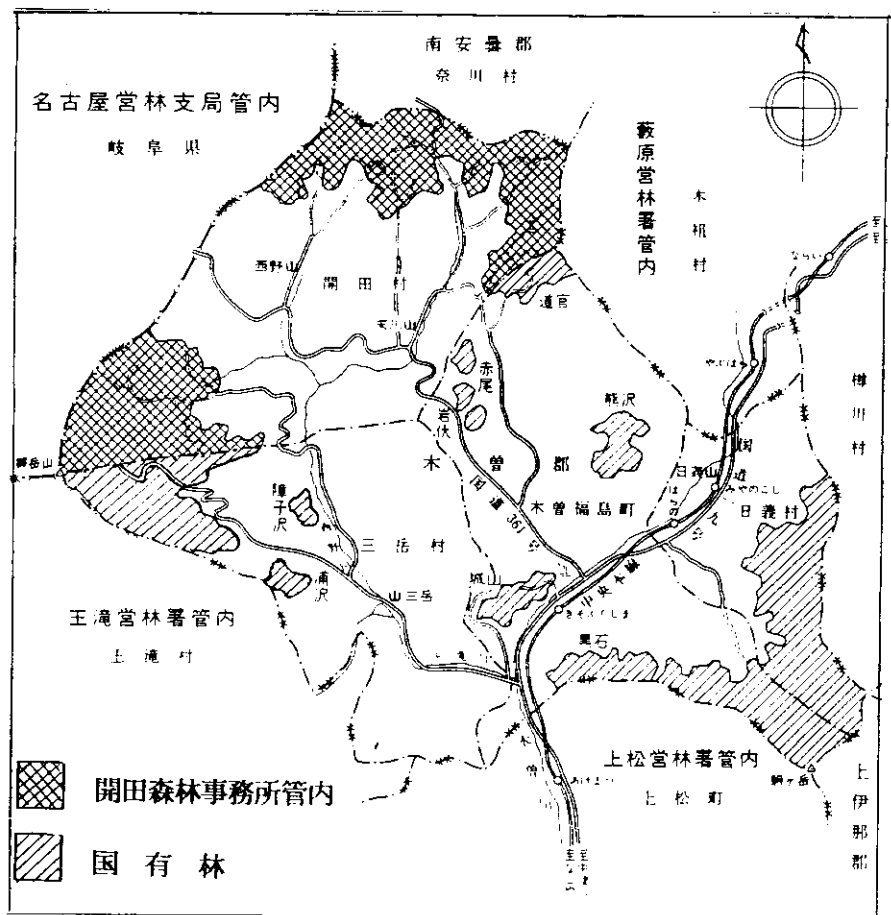


図-1 開田森林事務所管内位置図

3 造林作業と安全活動

造林作業は、地ごしらえ、植付、下刈、除伐、カモシカ防護柵作設が主たる作業である。

これらの作業を実行するに当り、次のような項目で安全活動を実施した。

- (1) 朝のミーティング、各作業前のミーティングの励行
- (2) 安全作業の徹底を図る（安全懇談会、安全日誌活用等）
- (3) 安全な作業間隔をとる（植付、地ごしらえ等）
- (4) ハチ刺され防止の防蜂網の完全着用（地ごしらえ等）

4 過去5カ年の災害発生状況

- (1) 平成元年 1件 同僚がミニバスのドアを閉めた際、被災者の指を挟む。
- (2) 平成6年 1件 休憩所に入ろうとして、足が滑り転倒捻挫した。

この2件の災害は、「手元」「足元」による典型的なものであった。

5 「安全いろはカルタ」の作成経過

(1) 作成のきっかけ

- ア 安全懇談会を盛上げるため、参加者一人ひとりが主役になる必要がある。
- イ 二つの班が一緒になったことから、安全意識の足並みを揃える必要がある。
- ウ 具体的な方法として、「安全いろはカルタ」を皆で考え作るようになった。

(2) 作成の方法

毎月の安全懇談会において、安全推進員が中心となり、6月から11月の6カ月で作成をした。

このカルタは全員が参加し検討する事を前提条件に、まず、一人が2句作って持ち寄り、安全懇談会の席で検討し作成した。月によっては2句から7句とばらつきもあり、またどうしても、よい文句が浮かばず、上の句だけの場合もあった、そのような時は皆で下の句を出し合い作成した。



6 作成後の結果

- (1) お互いに意見を出し、また聞き合う事により、明るい雰囲気づくりが出来た。
- (2) 「安全いろはカルタ」を作成する事により、安全意識を統一することが出来た。
- (3) 安全という一つの目的に向かうことから、安全意識の向上が図れた。

7 今後の取り組み

- (1) 「安全いろはカルタ」を、休憩所、ミニバス等に掲示出来るようカレンダー方式としたい。
- (2) 作業基準を意識するような、より具体的な「安全いろはカルタ」を作成したい。
- (3) 「安全いろはカルタ」をもとに、無理せず、油断せず、健康で安全な職場作りに努力したい。

8 おわりに

二つの班が、一緒になり一年が経とうとしているが、この「安全いろはカルタ」の作成により、造林班の仲間意識が高まり、とても良い雰囲気作りができた。今後も「無理せず、油断せず、健康で安全な職場作り」のために、署と現場が一体となり取り組んで参りたい。